

よりよい暮らしの支援と少しでも早い復興に向けて

情報を「見える化」しませんか？

情報が混乱して支援が思うように進まない、被災者の声がなかなか表に出てこない、打ち合わせをやって議論がまとまらない、決まったことがちゃんと実行されない…。そんな悩みの解決に役立つのが、付箋、模造紙、ホワイトボード、黒板などを使った情報の「見える化」です。



ステップ1 スペースを確保する

模造紙、壁、床、段ボールなどを使って、情報や意見を貼り出すスペースをつくりまします。みんなが見やすいところであればどこでもOK。後で増やせるよう、スペースは広めにとっておくのがコツです。

ステップ2 情報や意見を付箋に書き出す

集めた情報や意見を一つひとつ付箋に書きだしてみましょう。糊がついていない方が表です。タテ書きヨコ書きなど書き方は自由。情報や意見に応じて色やサイズを変えると後で整理しやすくなります。

ステップ3 分かりやすく整理する

似たようなものを一かたまりにしたり、そこに見出しをつけたり、順番に並べ換えたりすると、全体が分かりやすくなります。全体を眺めてみて、さあ、そこから何が見えてきましたか？

「見える化」すれば打ち合わせも効率アップ！

「3丁目は今こうなっている」「山田さんはこう言っていた」と言葉でやりとりしていても、話し合いはまとまりません。まずは、集めた情報や意見を「見える化」して、そこから取り組むべき課題や解決の方向性を見いだしていきましょう。しかも、付箋を使えば誰もが平等に意見を出すことができます。



みんなの「思い」を「カタチ」にしよう！

被災地では、一人ひとりの被災者の声にならない声や、どんどん変化する現場の細かいニーズを拾い上げ、機敏に対応していくことが求められます。支援の目的や場面に応じて「見える化」の形を工夫すれば、本当に必要な支援を素早く届けることができます。



被災地の思いを支援につなげる

「ああしてほしいなあ・・・」という被災者の声。「こうしてあげたいのに・・・」という支援者の声。どちらもうまく相手に伝わらず、それが素早い復興を阻んでいます。付箋を使って意見やニーズを整理すれば、そういった声と声をつなげ、思いを形にすることができます。中でも、自ら声を出せない被災者の皆さんの思いを書きとめて、大きな声にしていくことが大切となります。

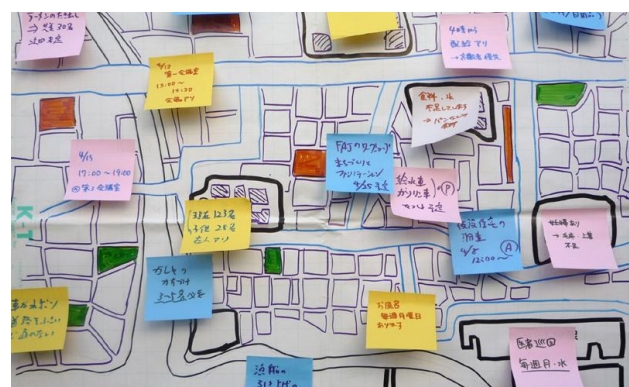
**心の声を
表に出そう！**



役割分担やスケジュールを分かち合う

せっかく話し合って決めたのに、「あれ、どうなったんだっけ？」「え、こうだったんじゃないの？」とチグハグなことがよくおこります。しかも状況がどんどん変化する被災地では、一人ひとりの記憶に頼るのは危険です。みんなで決めた役割分担や計画は必ず「見える化」して分かち合うようにしましょう。しかも、こうしておけば、後で入れ替えたり、変更したりするのも簡単です。

**思い違い
をなくそう！**



現地の情報を地図に集約する

毎日どんどんと変化する、多岐にわたる被災地の情報の全貌をつかむのは簡単ではありません。そんな時も「見える化」を使ってみましょう。現地を歩いてつかんだり、寄せられてきた情報を付箋に書いて、地図に貼りつけていくのです。こうしておけば、一目で全体像がつかめ、それぞれの関係が分かりやすくなります。変化する状況にも機敏に対応しやすくなります。

**全体像を
つかもう！**

FAJ 特定非営利活動法人
日本ファシリテーション協会
Facilitators Association of Japan

<http://www.faj.or.jp> tel 03-5771-7573
災害復興支援室専用 e-mail fukkou311@faj.or.jp

私たちは、話し合いの技法であるファシリテーションの普及・啓発を目的としたNPO法人です。被災地での話し合いを促進することを通じて復興を支援しています。本資料で紹介したグッズのご要望やファシリテーター（会議の進行役）の派遣をご希望の方はお気軽にご相談ください。